

褥瘡対策チームによる介護老人保健施設への介入の試み

社会医療法人社団 沼南会 沼隈病院
看護師 山本範子

沼南会グループは 118 床の沼隈病院を基幹病院とし、入所系サービスや在宅支援事業をおこなっている。沼隈病院での褥瘡新規発生率は 2%前後であるが、褥瘡持ち込み患者数は増加している。褥瘡対策委員会は新たな取り組みを検討する中で、関連施設である老健ぬまくまに着目した。委員会は会議で報告を受け、褥瘡発生者の評価とケア等の検討を行なってきた。報告を待つのではなく、褥瘡対策チームによる回診をおこなうことで老健施設の現状把握とスタッフへの現場教育を行うこととした。開始後 1 年が経過し効果が得られたので、その結果を報告する。

[方法]

褥瘡回診は月 1 回実施し、褥瘡保有者および老健スタッフが選定した利用者に褥瘡処置やスキンケアなどを実技をもとに指導した。

[結果]

褥瘡新規発生時に委員会に報告される褥瘡の深達度を介入前後で比較すると、介入前は一番深い褥瘡は DU：判定不能が毎年 1～2 例あったが、介入以後は D3：皮下組織までの損傷であった。老健看護師は褥瘡かスキントラブルかの判断に悩んでいた。気づきを聴き、問題解決にむけて教育・協働することで、介護スタッフからも積極的な質問がでるようになり利用者の個別的ケアやマットレスの適切使用についての指導ができた。

考察

褥瘡が深い状態になる前に発見・報告されるようになったことは、介入により老健褥瘡対策委員やスタッフの褥瘡に対する意識が高まったことの表れと考える。また、老健では判断に迷いケア等の対応に苦慮するうちに深い褥瘡へと悪化する症例あると考えることができる。回診は現場教育の場となるだけでなく、委員会と老健スタッフとをつなぐ情報共有の場となることがわかった。

褥瘡対策チームによる 介護老人保健施設への介入の試み

社会医療法人 社団 沼南会 沼隈病院 看護部
山本 範子

Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



沼南会・まり福祉会

《在宅訪問事業》

訪問診療
まり訪問看護ステーション
まり訪問介護ステーション



《まり高齢者複合施設 山南》

まり介護付高齢者住宅 山南 36室
まりショートステイ 山南 30床
まりデイケア 山南 定員 50名
山南クリニック



《病院・医院》

常石医院
沼隈病院
118床



《入居事業》

GHぬまくま
まりホーム熊野
まりホーム内海



《在宅生活応援事業》

介護老人保健施設ぬまくま
入所 定員 60名
通所リハビリ 定員 65名
訪問リハビリ



《居宅介護支援事業》

まり居宅介護支援事業所
山南居宅介護支援事業所



《在宅生活応援事業》

まりデイサービス内海
定員 40名

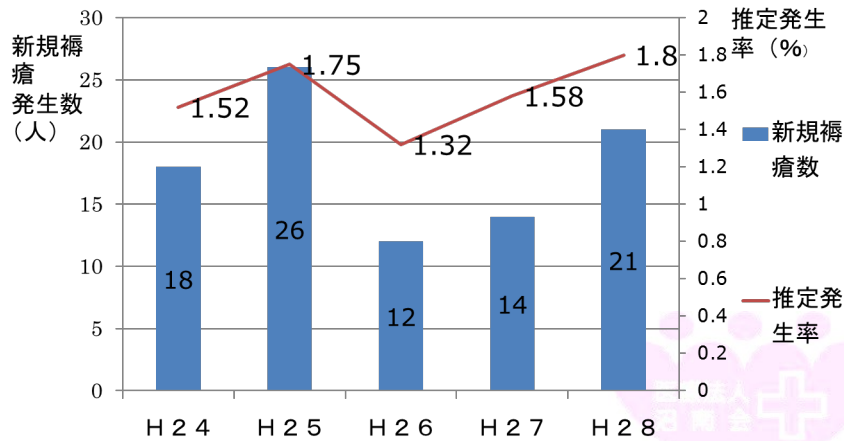


広島県福山市沼隈町大字中山南465番地の3
<http://shounankai.or.jp/>



Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima

沼隈病院 (H24~28年度) 褥瘡新規発生数と推定発生率

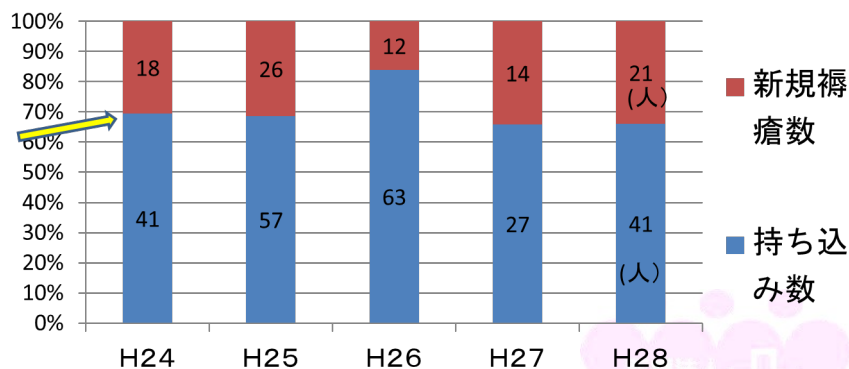


沼隈病院の褥瘡 推定発生率は昨年 1.8%で、1%以下を目標に委員会ならびに対策チームは活動を行っている。

Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



褥瘡新規発生数と持ち込み褥瘡数の比較 (H24~28年度)



褥瘡の持ち込み患者数は、保有患者の約7割を毎年占めている。保有患者は入院期間の長期化などの問題もあり 委員会は新たな取り組みを検討した。

Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



- 関連施設 老健ぬまくまに着目
- 老人保健施設は 介護・医療・看護を必要とする一般状態の厳しい入所者が増えている。このことから褥瘡発生リスクは高くなってきている。
- 褥瘡対策委員会は 報告を待つのではなく 沼隈病院褥瘡対策チームによる回診を行う。

- 目的：老健の現状把握とスタッフへの現場教育

- 導入開始後、1年が経過したので その結果を報告する。



Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017 

方法

- 1) 褥瘡回診対象者
 - ① 老健入所中の褥瘡保有者
 - ② 老健スタッフが選定した利用者

- 2) 褥瘡回診は月1回実施
 - ① 会議内容を検討し入院患者の症例検討にかかる時間を短縮
 - ② 褥瘡対策委員会の会議時間を1時間から30分に短縮
 - ③ 老健の褥瘡回診は30分以内

- 3) 褥瘡処置やケア・スキンケア等を老健スタッフと共に行い、実技をもとに指導

Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017 

4) 褥瘡回診参加者

① 沼隈病院褥瘡対策チーム

褥瘡対策委員長：形成外科医
病棟専任看護師 理学療法士
管理栄養士 薬剤師

② 老健ぬまくま

褥瘡対策委員；看護師 介護士
施設スタッフ

③ 関連施設褥瘡対策委員

グループホーム 高齢者住宅等



研究期間

H27年6月からH28年12月

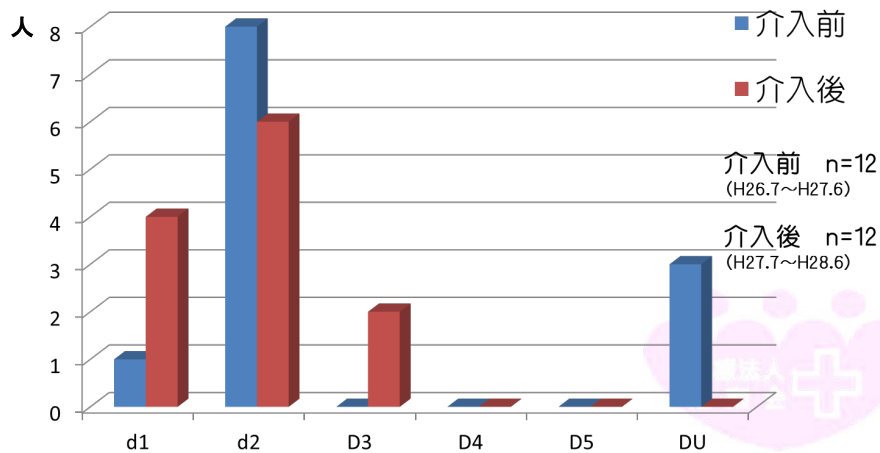
褥瘡評価方法

DESING-R[®] を使用



結果

介入前後12か月間の 新規発生報告時 深達度比較



Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



回診の雰囲気とコミュニケーション 介入開始当初 H27年6月

- 回診開始時は指導される側、指導側との緊張感が漂っている時期
- 指導することが多く、相談はすくなかった



Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



回診の雰囲気とコミュニケーション 介入開始12か月 H28年5月

- 雰囲気はリラックスしたものとなり、スタッフからの質問が増えてきた。
- 利用者の生活環境に着目し、好まれる椅子や座り方をみることも大切にした。
- 気になる場面ではアセスメント過程を説明ケアの相談・指導をおこなった。



Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



- 回診中に「そういえば」「会議で報告するほどではないのだけれど」など言われるが、話を聞くと重要なことが出てくることもある
- 老健看護師は褥瘡かスキントラブルかの判断に迷い、相談することに悩んでいた。
- 気づきを聴き、問題解決にむけて指導・協働することで、介護スタッフからも積極的な質問が出るようになり、利用者の個別的ケアやマットレスの使用についての指導ができた。

Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



考察

- 褥瘡が深い状態になる前に発見・報告されるようになったことは、介入により老健褥瘡対策委員やスタッフの褥瘡に対する意識が高まったことの表れと考えることができる。
- 老健看護師は、あきらかに褥瘡と判断できない場合は外来受診をすることや、ケアに悩んでいることがわかった。
- 対応に悩んでいるうちに深い褥瘡へと悪化する症例があると考えられる。



- 老健への褥瘡回診は、老健スタッフの知識・技術を確認しながら、現場での資源を利用し指導を行うことで、より具体的な教育の場となる。
- 委員会では「褥瘡や皮膚トラブルでの困りごとは褥瘡対策委員会に相談を」と研修会等でも説明をしていたが「相談をする」ということ事態にハードルがあったと考える。



- 多職種協働で活動する上で必要なスキルは「メンバー同士のコミュニケーション力」といわれているが、会議では出し切れなかった情報が回診という場では出てきた。
- 回診は話しやすい環境であり、委員会と老健スタッフをつなぐ情報共有の場となることがわかった。
- 今後の課題として、会議でのコミュニケーション力を高める必要がある。



結語

褥瘡対策チームによる老健への介入は褥瘡ケアの質の向上および、情報共有の場となることがわかった。

